

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2022.12)令和4年度:

,

看護学生の一次救命処置訓練による効果の文献検討

学生氏名 河原萌香 桑田美優
(指導：山口希美)

緒言

近年、心停止傷病者の1か月後生存率は上昇しており、救急搬送された心停止傷病者のうち、心原性かつ市民に目撃された場合の1か月後生存率は、平成22年(2010年)と令和元年(2019年)で比較すると、約1.4倍となっている(日本蘇生協議会, 2021)。

胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせた心肺蘇生と気道異物の除去は、誰もが出来る処置である(日本蘇生協議会, 2021)が、兼松ら(2008)は、一次救命処置(以下、BLS)講習は人命救助に対する意識に貢献しているが、現状では看護学専攻学生においても他学部生においてもBLS実施の自信へは繋がっていないと報告している。

そこで本研究では、看護学生を対象としたBLS訓練実施後の効果について明らかにし、BLS実施に対する意欲や技術力の向上に必要な要素の示唆を得ることを目的とした。

方法

対象:医学中央雑誌webを用いて、検索式は「BLS」or「心肺蘇生法」and「看護学生」、絞り込み条件は「原著論文」「本文あり」「会議録除く」で検索した。その中から看護学生のBLS実施後の効果について記載されている文献を対象として分析を行った。

データ分析方法: Berelson, B. の内容分析の手法(舟島, 2017)を参考に、データを質的記述的に分析した。研究のための問いは「看護学生のBLS訓練による効果は何か」とし、問いに対する回答は「看護学生のBLS訓練による効果は〇〇である」とした。対象文献からBLS訓練の効果についての内容を1文脈単位として抽出し、意味内容を損なわないように主語と述語からなる文章とし、記録単位とした。記録単位を概観し、出現頻度の高い用語をキーワードとして同一記録単位群に分類し、研究のための問いに対しての意味内容の類似性に基づいて、カテゴリを形成した。

なお、分析の妥当性、信頼性を高めるため、本研究に携わっていない看護研究者2名に、一致率算出のための協力を依頼した。

倫理的配慮: 本研究は先行研究に基づく研究であり、著作権の範囲内で複写を行い、出所を明示し、その引用方法に留意し、論文中の表記方法に従った。

結果

11対象文献から抽出した62記録単位を分析し、23同一記録単位群と6カテゴリを抽出した。カテゴリ分類における一致率は、80.7%と67.8%で、信頼性が確保されていると判断した。6カテゴリと各同一記録単位群を表1に示す。

考察

抽出された6つのカテゴリから、看護学生のBLS訓練による効果には、ポジティブな側面とネガティブな側面があることがわかった。以下、カテゴリを【 】, 同一記録単位群を〈 〉で示す。

1. BLS訓練によるポジティブな効果

看護学生は、BLS訓練により、【傷病者に声掛け・早期除細動などの項目ごとに意義や根拠を理解しBLSの知識と技術・実施方法を習得できる】という効果が得られた。富士ら(2021)は、BLS・災害・急変時シミュレーションを通して必要な技術や態度を学び、それらの振り返りや反復により実践力の向上という効果が得られると述べている。実際にシミュレーションしてみることで、〈BLSの知識を習得できる〉だけでなく〈BLSに必要な項目が実施できる〉ようになることから、BLSに関する知識や実施方法を理解し技術を習得するためには、BLS訓練をすることが重要であると考える。

また、【演習体験によりBLSの知識や技術の再確認ができ意識と実施意思を向上させ自信に繋がる】という効果が得られることもわかった。演習体験が〈過去の学習体験を踏まえて知識や技術の再確認ができる〉だけでなく、〈演習体験がBLSへの自信に繋がる〉ため、実際に救命場面に遭遇した際にBLSを実施したいと思うことができる実施意思にも影響を与えており、〈BLSの意識と実施意思を向上させる〉と考えられる。

BLS訓練を通して、【看護職の責務を理解することでチームでの連携や役割分担・協力することの重要性を理解できる】という効果もみられた。看

表1. BLS訓練における効果

カテゴリー	同一記録単位群 (記録単位数)	
傷病者への声掛け・早期除細動などの項目ごとの意義や根拠を理解しBLSの知識と技術・実施方法を習得できる	BLSに必要な項目が実施できる(9) BLSの知識を習得できる(4) 早期除細動の意義を理解(1)	BLSの実施方法とその根拠を理解できる(5) BLSのスキルをおおむね習得できる(2) 傷病者に声掛けができる(1)
演習体験によりBLSの知識や技術の再確認ができ意識と実施意思を向上させ自信に繋がる	BLSの意識と実施意思を向上させる(5) 過去の学習経験を踏まえて知識や技術の再確認ができる(3)	演習体験がBLSへの自信に繋がる(4)
BLSに関する知識・経験不足や実際の救急場面をイメージできないためBLS行動に自信がなく不安や心配がある	BLSに関する知識・経験不足から臨床の場面で冷静に対応できるか不安になる(3) BLSに関する知識や経験不足からくる心配がある(2) 実際の救急場面を具体的にイメージしにくい(2) 積極的なBLS行動には不十分(1)	実施を想定した時に手技に自信がなくなる(1)
看護職の責務とチームでの連携や役割分担・協力することの重要性を理解できる	チームで協力することの重要性を理解する(5) チームでの連携や役割分担ができる(2)	看護職の責務を理解できる(1)
自己の実践能力の現状を理解することでBLS技術の維持・向上の必要性に気付くことができ再受講を希望するなどの学習意欲の向上に繋がる	自己の実践能力の現状を理解する(2) 復習やステップアップを目的とした再受講を希望する(2) BLS技術の維持・向上の必要性に気づくことができる(1)	救急看護やBLSに対する学習意欲の向上(2)
実際の救急場面がイメージでき臨床で役立つ	実際の救急場面をイメージでき楽しさもある(3)	臨床で役立つ(1)

護学生として、〈看護職の責務〉や看護職だけではなく〈チームで協力することの重要性〉を理解することができていた。BLSを通じた救命処置は、看護師だけでは成り立たず、医療チームでの協力を必要とするものである。チームでの連携や役割分担・協力をBLS演習場面で学ぶことができたと考えられる。

【実際の救急場面がイメージでき臨床で役立つ】、【自己の実践能力の現状を理解することでBLS技術の維持・向上の必要性に気付くことができ再受講を希望するなどの学習意欲の向上に繋がる】という効果も得られることがわかった。七川ら(2011)は、BLS訓練がそれまで実施してきた各種演習内容を振り返る機会にもなり、技術の再確認に繋がると述べている。BLS訓練を行うことで実際の救急場面を想像しやすくなるだけではなく、〈自己の実践能力の現状を理解する〉ことができるようになる。振り返りと反復を行うことで自身の課題点に気付き、課題の克服に着目した演習に繋がると考える。

2. BLS訓練によるネガティブな効果

【BLSに関する知識・経験不足や実際の救急場面をイメージできないためBLS行動に自信がなく不安や心配がある】というネガティブな効果もあることがわかった。松清ら(2012)は、看護学生は、実習での看護実践を通じて、自分自身を振り返り、自らの知識や看護技術の未熟さを痛感するため、実習の経験が卒業後の自信には繋がらない可能性があるとして述べている。BLS訓練においても同様に、看護学生はBLSを実際に経験することで、改善点や課題を振り返り、自身の知識や技術の未熟さを痛感するため、〈実施を想定した時に手技に自信がなくなる〉のだと考える。

3. BLS実施の意欲や技術力の向上に必要な要素

看護学生がBLS訓練をすると学習意欲の向上や自己の実践能力の理解といった多くのポジティブな効果がある一方で、知識・技術・経験不足から実際に対応できるか不安が残る。そのため、知識・技術を定着できるように継続したBLS訓練の反復が必要であると考えられる。高橋ら(2021)は、BLSの効果や基本的な手技を教わっても、リアリティや当事者性を持って理解している人が少ないため、実例をもとにしたメッセージビデオ等によってリアリティやマインドに訴え、強い動機付けの形成が有効であると報告している。そのため、看護学生のBLS訓練においてもBLS実施の動機につながる機会の一つと捉え、当事者性を意識できるようなある一場面を想定したり、看護学生自身が自己の役割を意識した演習が必要だと考える。

対象文献

- 1) 福土理沙子, 板垣喜代子, 木村綾子, 他(2021): 看護師養成課程と救急救命士養成課程における一次救命処置・災害・急変時シミュレーション教育の現状. 弘前医療福祉大学弘前医療福祉大学短期大学部紀要, 2(1):39-47.
- 2) 川上勝, 宇城令, 段ノ上秀雄, 他(2011): 一次救命処置研修会に参加した看護学生の一次救命処置実施に対する自己評価の経時変化. 自治医科大学看護学ジャーナル, (8):171-176.
- 3) 兼松有加, 佐藤恵美, 井出萌子, 他(2008): 大学

生の一次救命処置に対する意識の現状と今後の課題. 医学部保健学科看護学専攻生と他学部生における比較検討. 日本看護医療学会雑誌, (10)2:44-52.

- 4) 風岡たま代, 飯塚麻紀, 上野桂, 他(2019): 看護学部2年生を対象としたBLS教育. 科目外教育での試み. 駒沢女子大学研究紀要(人間健康学部・看護学部編), (2):129-137.
- 5) 森本文雄, 渋谷正徳, 吉岡伴樹, 他(2005): 消防機関と連携した看護学生に対する心肺蘇生実習. 日本臨床救急医学会雑誌, (8)4:308-311.
- 6) 七川正一, 山本英次(2011): ACLS対応のステップアップ学習. 4年目の学習プログラムの概要ならびに成果報告. 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, (15):95-102.
- 7) 荻野朋子, 中島千里, 中川隆, 他(2007): 看護学部生に対する心肺蘇生法演習の効果. ACLS基礎コースを取り入れて. 日本臨床救急医学会雑誌, (10)1:26-31.
- 8) 坂下貴子, 茂野香おる, 大岡良枝(2003): 看護学生が継続したCPCR教育を受ける教育効果. 千葉県立衛生短期大学紀要, (22)1:35-43.
- 9) 新開裕幸, 師岡友紀, 白井里佳, 他(2010): 看護学生に対し簡易型の一次救命処置を看護技術演習で行うことの有効性. 大阪大学看護学雑誌, (16)1:39-47.
- 10) 末次典恵(2019): ジグソー学習法で展開した看護学生を対象としたBasic Life Support(BLS)教育の評価. 南九州看護研究誌, (17)1:1-7.
- 11) 山内正憲, 古瀬晋吾(2004): 短期間2回の心肺蘇生法講習の効果. 蘇生, (23)2:81-85.

引用文献

- 福土理沙子, 板垣喜代子, 木村綾子, 他(2021): 看護師養成課程と救急救命士養成課程における一次救命処置・災害・急変時シミュレーション教育の現状. 弘前医療福祉大学弘前医療福祉大学短期大学部紀要, 2(1):39-47.
- 一般社団法人日本蘇生協議会(2021): JRC 蘇生ガイドライン2020. 医学書院.
- 舟島なをみ(2007): 質的研究への挑戦 第2版. 医学書院.
- 松清由美子, 瀬川睦子, 長田艶子(2012): 総合実習における複数患者受け持ちによる実習効果 - 成人看護学領域における検討 -. 奈良看護紀要, 8:31-39
- 兼松有加, 佐藤恵美, 井出萌子, 他(2008): 大学生の一次救命処置に対する意識の現状と今後の課題 - 医学部保健学科看護学専攻生と他学部生における比較検討 -. 日本看護医療学会雑誌. Jpn. Soc. Nurs. HealthCare, 10(2):44-52.
- 川上勝, 宇城令, 段ノ上秀雄, 他(2011): 一次救命処置研修会に参加した看護学生の一次救命処置実施に対する自己評価の経時変化. 自治医科大学看護学ジャーナル, (8):171-176.
- 高橋誠一, 土屋守克(2021): 心肺蘇生法の受講による看護学生の援助規範意識の変化. 日本看護医療学雑誌, (23)1:1-7.